

# 北海道情報大学 同窓会会報

第5号

発行  
北海道情報大学  
同窓会

## 同窓会への想い

北海道情報大学

学長 嘉数 侑昇



平成十九年四月に就任したばかりの  
新米学長です。二年前から副学長として前任の井野智学長を補佐すべき立場でしたが、南国沖縄でとれたことに由来する生来のルーズさ（まじめな沖縄の方々ごめん）が災いして、本来ならば学ぶべき職としての学長とは何ぞや？を勉強せず四月を迎えることになってしまいました。

就任以来右も左もわからず、我が大学を取り巻く、歴史的、内的、外的環境、現状を知れば知るほど、混迷を深めている現状です。ようやく最近になって沖縄県人の特徴的精神構造を形成する「な

んくるないさ」…なんとかなるものさ、くよくよしたって始まらないんだから…心境にまでたどり着きました。

新任の常として自己紹介は必須でしょうが、代わりに私関連のホームページなどをご参照いただきたく、ついでに大学のサイトものぞいて下さい。最近の大学の変貌の様子が伺えると思います。

さて同窓会でした。私には大学卒業後の皆さんの職場、いわゆる出口先は見えますが、入口の元はモヤッとしていました。

大学でのすべてのものごとのスタートは、学生の入学に始まります。どこそこの高校から、あるいは専門学校から何名入学してきた、などということから始まるわけですね。

しかし、入口の元である皆さんの高等学校などの実情については、恥ずかしながら殆ど不明で、そこを見ないと何事も始められないのではないかと思います。

そこで、まずは高校を知るために、四月、五月、六月にかけて、本学と関係の深い野幌、札幌、石狩、江別、岩見沢、北広島、恵庭、千

歳、旭川の五十校の校長先生方を訪問させていただきました。この間の訪問を通してたくさんのご意見を勉強させていただきましたが、特に同窓会がしっかりとしている高校ほど、すべてが澁刺・活発であるとの強い印象を受けました。

考えますに、大学の同窓会というのは、家を基盤とする親族家族関係と同様に、我々の人生の一番多感な時代・学生時代をすごした大学を基盤とする、同窓生全員の精神的空間の共有関係そのものではないでしょうか。大学を車の本体にするならば、在学生と同窓会はその両輪のようなもの。大学そのものがしつかりすることは当然ですが、同窓会がしつかりしないと、卒業生は、まるで根無し草のようでさびしいものでしょう。

我がH I Uの同窓会は如何？

来年、平成二十年は大学創立二十周年の節目に当たります。大学もそろそろ壮年期に入るところ。これを機にH I U同窓会の更なる発展のみならず、電子開発学園全体の同窓会創設をも視野にいれつつ皆の英知を結集しましょう。「数は力なり」です。

## 卒業生 寄稿

### キャリアガイダンス講座の講演を振り返って

第一期生

経営情報学部 経営学科

大谷 和正

今回、同窓会会長の木村さんから依頼があり、一肌脱ごうとあまり深く考えずに依頼を受け、キャリアガイダンス講座で講演をいたしました。早い時期から進路に対する意識付けを目的にした講座で何を学生に伝えたらよいか、何を聞いて良かったと思えるかを考えた結果、現在のシステムエンジニアの仕事を通じて学んだ、仕事の全体像と求められているスキルと学生時代に力を入れておけば良かったことの三点を伝えることにいたしました。

SEに求められているスキルでは、①コミュニケーション、②プレゼンテーション、③問題解決、④IT、⑤協調性のスキルを磨くこととシステム開発の知識を体系的に学ぶために資格取得を目指すことで自分の価値を高めてもらいたいと思います。

学生時代に力を入れておけば良かったことでは、①英語、②財務・会計、③法律を挙げました。講演後、お世話になった中国語の玉置先生が会場におられ、久しぶり